

被ばくと真正面から向き合い、労働者・住民を守る拠りどころ

ふくしま共同診療所 活動報告会

5/22
(日)

13:00 開会

入場無料

いわき市
LATOV[ラトブ]
(JR いわき駅南口)

6階産業創造館
セミナー室

JR 常磐線全線開通絶対反対！
解雇撤回・非正規職撤廃！
国立いわき病院の労災隠し弾劾！
医療を労働者の手に取り戻そう！

いわき駅前
大街頭宣伝



5/22 10:00 開始

「放射能被曝の隠ぺいに対決する
今求められている医療とは」



ふくしま共同診療所
杉井吉彦 医師
深谷邦男 医師

「被曝労働の強制に反対する
地域の労働組合のとりくみ」



国鉄水戸動力車労働組合

医療相談

報告会后、医師による無料の個別相談会を行います

ふくしま共同診療所

960-8068 福島市太田町 20-7 佐周ビル
電話：024-573-9335 FAX：024-573-9380



呼びかけ：国鉄水戸動力車労働組合

いわき合同ユニオン
NAZEN いわき

(平支部) 973-8411 いわき市小島町 3丁目 3-1 佐藤ビル 電話：0246-38-7840
Email:nazen_iwaki@yahoo.co.jp

労働者・住民が団結して社会を変える拠点を打ち立てよう！

■福島切り捨ての常磐線全線開通反対！

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故は、私たちが生きる社会のあり方を根底から問う出来事でした。5年が経過し、167人にものぼる小児甲状腺がん発症や、終息のメドすら立たない原発の現状に対して、私たちがいかなる立場に立ち、何をなすべきかが問われています。

4月14日から引き続く熊本・九州大地震は、日本列島のどこにも安全な場所などないことを改めて示しました。労働者・住民の命と生活を踏みにじって金儲けをひたすら求める新自由主義がこの災害を未曾有な被害に拡大しています。地方切り捨てで疲弊した自治体は住民を守れません。病院も機能していません。それどころか政府は震源に近い川内原発をあくまでも稼働させ続けています。5年間の福島の現実と九州の人々の苦難は全く同じです。

安倍首相は今年3月に福島を訪れ、原発事故によって不通となっている常磐線を2020年東京五輪までに全線開通させることを宣言しました。労働者・住民をさらなる被曝にさらし、原発事故を「なかったこと」にし、東北・九州の復興のために使うべき資金も資材も五輪につぎ込んで、自分たちだけは生き残ろうとするためです。JRの労働組合・動労水戸は、労働組合の社会的使命にかけて常磐線全線開通絶対反対を貫いて闘います。

■ふくしま共同診療所を発展させよう

原発事故による放射能汚染に真正面から向き合い、労働者・住民を守る取り組みを続ける「ふくしま共同診療所」の活動を広げ、いわきの地でも診療活動

を行うことを目指して、5月22日に3回目となる診療所報告会を開催します。被曝による健康被害を否定する福島県立医大・福島県医師会と対決し、地域に根ざした労働者・住民の拠りどころとして労働運動と医療の拠点を打ち立てることで、私たち自身が「いま医療はどうあるべきか」を決めることができるのです。

■労働者の団結で医療・福祉を取り戻す

国立病院機構・いわき病院での労災隠し・不当配転・退職強要の攻撃に対し、当該労働者が怒りに燃えて闘っています。命と健康を守るための医療・福祉の現場で、過重労働が日常化し、医療・福祉労働者の誇りが軽んじられ踏みにじられています。労災隠しは放射能による健康被害を否定することと同じ問題です。

■解雇撤回・非正規職撤廃の闘いを！

社会を動かしている労働者の誇りと団結を奪う攻撃に対して、闘う労働運動をよみがえらせることが求められています。青年労働者の未来を奪う不当解雇や、業務の中軸を担うベテラン労働者が非正規職に置き換えられ、生活すらままならない現状に対して、「もう我慢がならない」と怒りをもって闘いが開始されています。

5月22日は、いわきの地域のど真ん中に労働者・住民が闘って生きていくための拠りどころを打ち立てるために行動する日です。皆さんの大結集を呼びかけます！

診療所をさらに大きな病院へ！

支援カンパにご協力をお願いいたします。

○郵便振替口座：02200-8-26405
加入者名：福島診療所基金

○銀行口座：福島銀行 本店（110）
普通預金 1252841
加入者名：福島診療所建設基金
代表 渡辺 馨



電話：0246-38-7840

Email：iwakigodo@yahoo.co.jp

職場の問題
労働相談は
いわき合同ユニオンへ